

## 関東同窓会新年会で落語を楽しむ (1月18日)

関東同窓会会長 上原 昇 (2組)

令和になって初の関東同窓会新年会は1月18日(土)18時から千代田区一ツ橋の日本教育会館で開催された。当日は夕方から東京で雪が舞うという予報の生憎の天気となったが、53期から104期まで110名の同窓生が参集した。

これはこれまでの新年会では最多の参加人数である。

因みに65期の出席は3名と例年に比べちょっと寂しい状態であった。

今年の新年会アトラクションは同窓生では初めての噺家(と思われる)、立川談慶師匠を招いての新春落語会を企画した。

過去の記録を辿ると、落語を聴くのは2011年1月20日の新年会で、三遊亭鬼丸師匠(上田染谷ヶ丘高校出身)を呼んで以来である。

談慶さんのプロフィールは本名を青木幸二、丸子町出身、82期として上田高校に入学、1年時に山梨の高校に転校、慶応大学(経済)を卒業して、サラリーマンを経験した後、立川談志に弟子入りしたという変わり種の人である。

会場には談慶さんと同期の82期の仲間が15名も集まった。

冒頭、同窓会会長を務める筆者から新年のご挨拶を。

落語の前には上田からお越しいただいた師匠のお母さん(染谷ヶ丘高校OG)が登場して、紙芝居『上田生まれの赤松小三郎さん』を特別上演した。

談慶師匠の紹介は落語の世界に詳しい荻原貴さん(79期、副会計長)から。

同窓会役員たちが苦勞して準備した高座に登場した談慶師匠は、枕で上田高校を転校したのは決していじめなどではないと笑わせる。

その後、談慶さんの師匠談志の師匠でもある柳家小さんが十八番(おはこ)としていたという、古典落語「禁酒番屋」を額に汗をかきながらの大熱演。

話の筋はご存知の方も多いと思うが、お正月に相応しいお酒の魅力と怖さを笑いに包んで、会場は笑いとお熱気で最高潮に達する。

初笑いを堪能した後は、隣の会場に移動して新年懇親会が始まる。

会の中では、今年の同窓会総会の実行委員長、掛川治男さん(73期)の決意表明や、今年行われる東京オリンピックの組織委員会で活躍する若手同窓生の清水瞳さん(103期)、高山大蔵さん(104期)の挨拶などがあり、大いに盛り上がったところで、21時前に散会となった。

(2020年1月19日記)

以下写真2葉（撮影は本村編集長）

【写真1:熱演する立川談慶師匠】



【写真2：懇親会風景（右側ネクタイ姿が筆者）】

